

野の花館だより

2005/夏号 / No.36

昨年の今頃はもう台風に悩まされていたと思うと今夏はまだ入梅もせずさわやかな五月晴れが続いています。年度替りの事務に追われ、野の花館まつり・総会を終えたらもう夏でした。皆様にはお変わりありませんか？野の花館では今期から代表理事が変わりました。前代表の永野さんには、準備会からずうっと・・・本当にご苦労様でした。まだまだ、理事として残っていただきますのでよろしくお願ひいたします。

4月23・24日には第11回野の花館まつりの開催（詳しくは2ページ）。地元の子供たちの参加が多く、人形劇祭り、春を食べる会を楽しみました。5月8日（日）14：00より第6期総会を開き、今年度の野の花館の活動について話し合われました。新代表理事からのメッセージです。

第6回総会を終わって・・・

この度、代表理事を務めることになりました、岡田心平です。私が宮崎に引っ越してきたのが12年前でちょうど野の花館が土呂久から移築されてきた直後でした。

つまり、私の宮崎の生活と、野の花館のあゆみとが、ぴったり重なるわけです。12年前と比べると、周りの環境も少しずつ変わり始めています。大きなスーパーやアパートが建ったり、県道の交通量が増えたり、田んぼが減ったり、少しずつ市街地化しつつあります。

10年後、20年後はどうなるでしょうか。すっかり市街地化しているのでしょうか。だとしたら、そんな中で竹藪に囲まれた古い民家、野の花館はもっともっと貴重な存在になっているかもしれませんね。

では、そこで野の花館は何を果たしていくべきでしょうか。

その方向性は、最近の活動で十分に示されていると思います。地域に根を下ろした活動。

特にこの数年は、こどもの居場所提供事業＝学童保育、情報誌の発行などを通して、地域に密着した活動の方向性が明確になり、地元高鍋の方々への認知もずいぶん広がってきたと思います。

ところで、最近ちょっと議論が少なくなったように思います。『野の花館設立準備会』のころは、将来の夢をずいぶん語り合ったものでした。もちろん、いつまでも夢ばかり語っているわけにはいきません。活動内容が定まり、運営が安定してきたのはもちろん良いことです。

しかしスタッフの顔ぶれも大体固定している状態です。将来のことを考えると、ちょっと心配です。

これまで積み重ねてきた財産をどう生かし、伝えながら、次の10年20年、この宮崎県高鍋町中鶴の地で、何ができるのか。

それをあらためて考えてみる、この2、3年を、そういう時間に充てられたらなんと、考えています。そして、仲間を増やして行きましょう。

(総会の日・・・)

* 五月のさわやかな青空にこいのぼりが泳ぐ。

こんな日曜日はどこか野山を歩きたくなる。なんて思いながら野の花館総会にのぞむ。

どっしりした屋内にすわれば、どこそこから五月風が通りすぎ、竹林のざわめきが伝わってくる。不思議なものだ

「どこかへ行きたい」なんて思って運転して来た思いがすーと消えてる。

総会は16年度の報告も終り、17年度そしてこれからの野の花館のあり方について話し合われる。

・みまわすところには文化がある。他との違いは何？どう外へアピールするのか。

・こどもの居場所づくりの必要性は子どもたちが一番知っている。その子どもたちはここで「昭和」の時間と空間文化を味わっているのではないが、

など出ている。

そうだ、外へむけてのアピール、それはもしかしたら、昭和で育った人たちとそれ以前の文化の凝縮である家・場をテーマにして考えたらいいのでは……………

隈元三枝子



野の花館まつり

第11回 子供に夢を心ときめく出会いを！！

おとうさん！おかあさん！いっしょにつくりませんか？

4月23日(土) 17:00 ~ 18:30 春を食べる会 60人参加

野の花館御膳(天ぷら・白和え・嫁菜ご飯などなど)春の香りと味を楽しみました。高千穂町土呂久の佐藤マリ子さんのバングラ農村見学記の発表も大好評でした。

4月24日(日)10:00~15:00 人形劇祭り・延べ150人参加

町内さつき会「桃太郎」、人形劇団 D51「地獄のそうべえ他」、人形劇団おやま「チュウ子ちゃんの見ててね」ほか、和太鼓集団「鼓遊」のワークショップ・ぴいくらぶの(ブラックパネルシアター)・パントマイムと多彩なプログラムでした。

感想

今年も楽しくおいしく野の花館の春をいただいた。毎年「へ~これも食べられるんだ~」と思う物があり、今年はスギナのとんぷらにビックリ！庭のやっかい物もおいしく頂き、私のエネルギー~になった。ごちそうさまでした。

佐藤さんのバングラ報告会は、ただただステキ！でした。

マリ子さんらしい視点で現地の生活をレポートして下さい、現地の皆さんプラスマリ子さんの生きる姿が伝わるようでした。

ありがとうございました。

人形劇「桃太郎」



(大山磨佐恵)

ばーワイド 2005年(平成17年)4月29日 金曜日

多彩な人形劇 親子ら楽しむ

高鍋で野の花館まつり

「子どもに夢を、心ときめく出会いを！」をテーマにした第十一回野の花館まつりは、二十四日、高鍋町北高鍋の特定非営利活動法人(NPO)法人野の花館であった。多彩な人形劇のほか、野藪や山菜の味と香りを楽しむ春を食べる会があり、大勢の親子連れでにぎわった。

人形劇まつりにはさつき会、人形劇団D51など五グループが出演。「桃太郎」や「地獄のそうべえ」など絵本を基に制作した人形劇やパントマイム、パネルシアターなどを披露した。劇団おやまは前座で「ごちそうさまでした」の歌を子どもたちと合唱。タヌキの代わりにタコの人形が出てくる子どもたちは舞台を指さして「うー」と突っ込んだ。



人形劇を熱心に観賞する子どもら

み、大興奮。楽しそうに劇に参加していた。まつりではこのほか、和太鼓に触れ合うワークショップやバザー、読み聞かせも開かれ、町内外から訪れた百人以上の家族連れが交流を楽しんだ。

小学四年生のころから放課後になど野の花館に通っているという大山奈美さん(三十一)高鍋西一年は人形劇まつりの司会進行を担当。「二日だけ皆さんの人形劇やパントマイムが見られて楽しかった」と話していた。

野の花館子育て支援事業 子どもの居場所 2005 ノートより

* 4月1日(金)

今日は、来るとまさし君は自転車の練習をしていました。ハンドルをささえていないと、たおれてしまいます。なっちゃんも自転車であそんでいたの、コタツにいたけいこちゃんも、出て来て自転車に乗るのですが、空気がぬけていて自転車がガタガタします。則松さんに空気入れをおかりして空気を入れても、フタがないので、出てしまいます。私やなっちゃんのフタをかりても、空気がぬけてしまいます。今日はしかたがないのでなっちゃんと、私と3人で歩いて帰りました。(竹田恵理)

* 4月18日(月)

今日は、りほちゃんを迎えに小学校に行きました。1時すぎ頃、りさちゃんと一緒に手をつないで下校してきたので、3人で帰ってきました。りほちゃんは給食のカレーを服にこぼしてしまったので一度家に寄って着がえてからいきました。野の花館についたら、すでに他の子供たちは帰ってきていました。けい子はすぐに宿題をはじめ、みゆきはホワイトボードに絵をかいていました。他の子達は奥の方で座布団を広げ遊んでいました。おやつは、けい子のアイデアで宝さがしの様にお菓子をかきみんなで探しました。その後、川に行き遊びましたが、ひろしが落ちかけ服をぬらしてしまいました。いそいで、まあるの着がえの服を着て川に戻って行きました。ケガがなくて良かったです。4時ごろに大山さんが来て、プレイヤーをパトタッチしました。(二階堂 真理子)

* 5月16日(月)

東小代休の為、10:00より子ども達は集まって来ました。大山家にそば粉が沢山あったのでみんなでそばを作りました。できあがるまではみんなよく働き、こねてのばして切って火をおこして...と楽しく活動しました。りほちゃんとなっちゃん、けいことひろしは自転車だったので、野の花館の中を走りまわりました。お昼にはみんなおべんとうとそばを食べて満足かと思ったら、全員「スープはおいしいけどそばはマズイ」という感想でした。花倉さんの差し入れもありみんな楽しいお昼 Time でした。いつもの様に片付けまで手伝ってくれたのはみゆきちゃんだけでした。午後はまた自転車をのり回しました。みんなで遊んでいたのに特に止めませんでした。(みゆきちゃんは私を手伝い、たまよはゴロゴロしていました)藤田さんと交代で帰りました。その後、もどってきたら岩佐さんがお友だち2人と(子どもは1年生3人幼稚園児2人)来て申し込みをしたいとの事でしたので申請用紙コピーして差し上げました。毎日ではなくイベントごとが楽しみだという事でした。(第4土の講座を案内しておきました。)来週申し込みに来られると思います。(大山 鷹佐恵)

* 5月23日(月)

今日もりほちゃんがまさきに自転車でやってきました。すぐに宿題をはじめましたが、なかなか集中できないようでした。少しすると、まさしが帰ってきました。私が手紙をわたすと、よろこんで読んでいました。それから私に手紙を書き、イスとざぶとんで遊びはじめました。また、少しすると、りさちゃんが帰ってきました。りさちゃんもすぐに宿題をはじめましたが、やっぱり集中できなかったようです。りほちゃんの宿題がおわり、りほちゃんとまさしがいっしょに遊びはじめた頃にみゆきちゃんが帰ってきました。みゆきちゃんは、リコーダーが好きらしく、まさきにリコーダーを出して見せてくれました。おやつにする前には、みんなちゃんとお片付けをしてくれました。おやつのは、宿題をやったりタケノコをとったりしました。みゆきちゃんだけ宿題をさいごまでできず、さいごは、リコーダーをふいたり、歌ったりしていました。(藤田淑子)

* 5月26日(木)

今日は、14:30頃にもうまさしが来ていたそうです。私が着くと「お姉ちゃんより早く着いたよー！」と言われました。今日は、新しいお兄ちゃんが2人と、よしこお姉ちゃんが来てくれて、子供達は皆大喜びではしゃぎまわっていました。みゆきはこうへいお兄ちゃんに絵を描いてもらい、皆に見せてとても楽しそうに笑っていました。りほはつばさお兄ちゃんにつきっきりで絵を描くのを見てもらっていました。おやつを食べるのも忘れるくらいでした。まさしとりさは、よしこお姉ちゃんとたけのこを探していました。大山家のお迎えが来たとき、もぐらが亡くなっているを発見しました。今日は子供が少なく、お兄ちゃん達もたくさんいて子供達は十分に遊んでもらえていてうれしそうでした。(境 美穂)

育児だより

* ちなぼん日記* 金丸 智子

梅雨も近い今日この頃、いかがおすごでしょうか、我が家は益々にぎやかで、人の集まるエネルギーを実感しているところです。

4月に、予定日を4日も過ぎて赤ん坊がやってきました。母としては不本意な産み方だったのですが、元気に出てきました。今回は平日の、しかも午後3時すぎ、たった一人で産みました。4人4様で、それはそれでいいかも、といったところです。千夏は、特に赤ちゃん返りもせず、彼女なりにかわいがっております。5月には無事に2才を迎え、共同保育園に週2日半通い始めました。あまり大泣きもせず、日々、水と泥にまみれてどろんこlifeを楽しんでいます。

よく食べ、よく遊び、よく眠る、本当に丸々としたコブタの様に元気な千夏です。このまま大きくなってくれればいいな。

4月11日にやってきた金丸家の4番目は、朔巳(さくみ)としました。画数で好きな字と響きで決めたので、深い意味はありません。強いていえば、へびの様に永く時を刻んでいてほしい。といったところです。



* 夏勢幼稚園へ* 伊藤 美穂子

四月から夏勢は年長さんになった。

今年から家の近くの幼稚園に行くことにしたので、通園にかかる時間がものすごく短縮した。のりもの酔いが最近ひどくなってきた夏勢と、いつまでたっても車の運転の下手な私と二人ともにとってほっとする毎日だ。しかし、一番肝心な点“夏勢は園になじめるか”についてはどうかという点、五月下旬頃からやっと楽しくなってきたかな、どうかな、という感じだ。前の晩から緊張していたり、朝起きてすぐに行きたくなくて号泣するのはなくなった。とりあえずよかった。

私自身も、園に早くなじみたくて、クラス役員をしてみることにした。しかし後から仕事の多さを知り、ポーンとした。だから、みんなゆずりあってたのか！とやっと理解した。けれども、もし役員をしなければ、口下手な私はほとんど誰とも話しができないまま卒園式の日を迎えるだろうことは、目に見えている。やっぱりクラス役員になってよかった…はず。

* たまちゃんのまき* 大山 鷹佐恵

たまよはままごと遊びが大好きで、人形をずらっと並べ布団にみたてたハンカチをかけてトントンしながら遊んでいる。お姉ちゃんもお兄ちゃんもいるからいろんな人形が並ぶ、くまやうさぎのぬいぐるみにまじりウルトラマンも寝かせられている。先日はウルトラマンをおんぶしていた。お兄ちゃんの時よりウルトラマンが活躍しているのがおもしろい。

先日、友人が「もう子ども達がつかわないから…」とおもちゃを持って来てくれた。たくさんのかわいいおもちゃやバッグ、人形にまじり「こりゃなんだ?!」というようにくたびれた(失礼)ぬいぐるみが一体、あらいぐま?! いたち?! 私は今だ何かよくわからない。ところがなぜかそれが一番のお気に入りとなってしまった。現在、たまよの親友となったそのぬいぐるみは毎日わきにかかえられ、おんぶされ、時にはふみ台にされ...と、がんばっている。ただ...暑くなってきたのに私におんぶしろとは言わんで欲しい。

次回イベントのお知らせ

(芸文振H17助成内定) 野の花館子どものための舞台公演夏 2005

平成17年9月10日(土) 19:00~

11日(日) 13:00~

2回公演

内容 うずめ劇場（北九州市）若手旅公演 「レオンスとレーナ」宮崎初公演
（うずめ劇場・旗揚げ10周年記念ツアー公演）

うずめ劇場って？ プロフィール

1995年、北九州にて設立。

1996年4月旗揚げ公演「わが友ヒットラー」上演。現在北九州を拠点に、年2～3回のペースで自主公演を行っている。

ドイツ語を母国語とする主宰者ペーター・ゲスナーによる本格的な演劇メソッドを基盤に展開しており、主に我が国60年代以降の小劇場運動への理解とシンパシーを動機として、既存の日本内外の戯曲を翻案・上演してきた。神社の境内、寺の本堂、ホテルのテラスなど常に空間にこだわった芝居作りが特徴。また、北九州周辺地域での公演、ワークショップ等多く行い、九州・中国地方の広域へ観客層を広げている。

ペーター・ゲスナー プロフィール 1962年、旧東ドイツライプチヒ生まれ。

国立ベルリン俳優学校で学び、ターリア劇場で4年間演出、演出助手、俳優、プロデューサーとして勤務。ライプチヒ大学で演劇学修士取得。

1993年より北九州在住。1994年より北九州演劇祭実行委員会委員。

1996年4月「うずめ劇場」旗揚げし、現在北九州市を拠点に主宰者として演劇活動を展開。

1998年より北九州演劇祭実行委員会から委託を受け、演劇アカデミーの講師を務める。

2000年9月（財）舞台芸術財団主催の第一回利賀演出家コンクールで最優秀演出家賞受賞。

2001年12月、北九州市市民文化奨励賞受賞。

「うずめ」の由来

うずめという名前は、演劇の母と謳われている世阿弥の書の中からつけられました。

あめのうずめのみことという女神です。うずめは、ここ九州高千穂の暗く深い森に、猿の王と暮らしていました。天照大神が岩戸の中に隠れ、世界が暗闇に包まれた時、神々は岩戸の前で姿をみせてくれるようにと祈りました。しかし、岩戸は開きません。そこへ、あめのうずめのみことが現われ、一糸まとわぬ姿で我を忘れた官能的な踊りをしたところ、岩戸はすこしずつ開き世界は光を取り戻したのです。うずめだけが暗闇と戦い、光を得る力を持っていたのです。このうずめの力を授かりたく、うずめ劇場と名付けました。闇があるから光があり、愛すればこそ憎しみ、悲しみがあるから喜びを知る。相反するものは、一枚のコインの裏表。私達は、人間の美しさと醜さを表現する演劇グループです。

作品解説《レオンスとレーナ》 【あらすじ】

レオンスはある国の国王である。何不自由なく暮らしているが、人生の目的を見出せないまま無為に日々を過ごしている。あるとき、レオンスのお妃選びが始まりお見合いをすることになった。彼は、それを拒み出奔する。すると、そのお見合い相手であるレーナもまた、お見合いから逃げ出していた。2人は、互いのことを知らずに出会い、ひかれ会う。そして、それぞれが元の自分の居場所に戻った時、再び出会い、晴れて結ばれるのだった。

うずめ劇場ホームページより・・・

* 地域の伝統に結び付こうとする演劇は建物の立派な劇場の中で演ぜられる必要はない。あちらこちらの団地や居住地域を移動できるものでありたい。子どもたちを一晩だけでもテレビ演劇から解放できる演劇でありたい。

{うずめ劇場}は関連のほかのジャンルの芸術家たちが協力し合えるものでありたい。

さらに演劇に関する知識や技術の習得を助けるものでありたい。・・・

お楽しみに・・・ライブが出来次第お送りいたします。

事務局日誌より

3/22(火) 3月定例会
27(日) みやざきひとつばおやこ劇場 合宿
~29(火) ”
4/14(木) 会計監査
23(土) 第11回野の花館まつり・春を食べる会、理事会、4月定例会
24(日) 第11回野の花館まつり・人形劇まつり
5/8(日) 第6回総会、5月定例会
18(水) うずめ劇場下見のため 来館

3月高鍋町議会で子育て情報誌「野の花」が話題になりました。

Y議員の質問と福祉保険課長の答えです。【概略】

Q 私、この前、保健センターで「野の花」高鍋発初めての子育ての子育て情報誌というのを戴きました。これは新聞で報道されましたが子育て中の母親にとって本当にほしい情報誌だと思います。よいものを作っていただいたな思いますが、何で今までなかったのか、どうして町が作らなかったのか、-民間より先にこういう取り組みを是非していただきたいと、思います。これによりますと県の情報、町の情報もたくさんですけども、これは野の花館さんが独自に作られたということでしょうか、町の方に一度相談があって、町の方がどうしても予算的に出来ないということだったのか、いきさつをお聞きしたいと思ったんですが、ちょっと連絡が取れず今日になっています。…

A…この事業につきましては、社会福祉協議会を通して県に野の花館が補助金を申請しています。県社会福祉協議会が交付したということで、実際、資料作製に当りましては、野の花館の方が各関係機関、町も当然入りますが、資料収集のお願いを出されて、直接それぞれの事業所あるいは市町村役場、県そういったところに出向いて資料収集をされて作製された。そしてまた、現在役場の窓口ははじめ健康づくりセンターとか関係するところにすべて配布されたという風に聞いております。

…

というわけでちょっとは地元で根付きつつあるかなあ…とはいったものの財政的にはなかなかです。本当に恐縮ですが今

年度もまたご支援のほどよろしくお願いたします。お近くにおいでの際はぜひお寄りください。

野の花館へのご支援感謝します！

濱崎恵子、黒木淑子、間 妙子、日野原義文、吉川昌芳、永野欣子、去川笙子、中武真理己、菊池和恵、六反園あい子、隈元三枝子、川越慶子、平野伊津子、大山高司・磨佐恵、佐藤慎市、佐藤マリ子、重永圭二郎、畠中恵子、金丸智子、永野 寛、金子信吾、黒木えり子、岡田心平、伊藤美穂子、田村直美、田村光弘、黒木至美、岡田幸子、重永重美、北川義男、平湯文夫、杉本サクヨ、西田 守、千竈八重子、永崎 翠、丸山暁美、まつのりこ、古屋恵子、柳田克敏・留美子、神野香久子、桜井喜美江、安芸逸郎、飯田悦子、山口郁代、共同保育園どろんこ、永山由美好、曾我参作・恭子、松島千衣子、松村岳朗、くげぬま療院、藤 あけみ、神田香織、則松直樹、續木 力、久保田 慈、堤 伸子、戸高あすか、石川弥生、松山章子、松井幹夫、井上昭文堂、伊藤美津子、田口万里子、柳田美代子、則松文字子、田中睦美、金丸京、境 美穂、濱崎宏嗣、濱崎由加里、花倉初代、黒木月美、峰 瑞枝、岡山 勇、甲斐勝行、小島外一郎、堀井由美子、加藤直樹、永井賤子・寛子・悦子、那賀美恵子、藤田規子、前 弘之、竹嶋 寛・道代、則松節男、則松和恵
2005年度分会費、寄附金をよせてくださったみなさまです。[順不同、敬称は省略させていただきました]

ご意見ご感想ご質問などお寄せください。

宛先: 特定非営利活動法人 野の花館

〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664

phone & fax: 0983-23-0701